

## 化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	2001 - 7	官報公示 整理番号	1 - 543(化審法) 1 - 25 (化学物質管理促進法)	CAS 番号	1309 - 64 - 4
名 称	三酸化二アンチモン		構 造 式	Sb <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	
分子式	Sb <sub>2</sub> O <sub>3</sub>		分子 量	291.52	
<p>化学物質管理促進法では「アンチモン及びその化合物」として指定されているが、評価シートは、生産量等を考慮して「三酸化二アンチモン」について作成した。 従って、原則として三酸化二アンチモンについて記述するが、三酸化二アンチモンとしての情報が得られない場合には、アンチモン及びその化合物についても記載する。</p>					
<p>市場で流通している商品(代表例)</p> <p>純 度 : 99%以上<sup>1)</sup></p> <p>不純物 : 不明</p> <p>添加剤又は安定剤 : 不明</p>					
<p>物理・化学性状データ</p> <p>外 観 : 白色粉末<sup>2)</sup></p> <p>融 点 : 655 <sup>3)</sup></p> <p>沸 点 : 1425 <sup>3)</sup></p> <p>引 火 点 : 該当せず(不燃性)<sup>2)</sup></p> <p>発 火 点 : 該当せず(不燃性)<sup>2)</sup></p> <p>爆発限界 : 該当せず(不燃性)<sup>2)</sup></p> <p>比 重 : 5.2(立方晶)、5.67(斜方晶)<sup>3)</sup></p> <p>蒸気密度 : 該当せず</p> <p>蒸 気 圧 : 該当せず</p> <p>分配係数 : 文献なし</p> <p>加水分解性 : 該当せず</p> <p>解離定数 : 文献なし</p> <p>スペクトル : 文献なし</p> <p>吸脱着性 : 文献なし</p> <p>粒度分布 : 該当せず</p> <p>溶 解 性 : 水に不溶<sup>2)</sup></p> <p>換算係数 : 該当せず</p> <p>そ の 他 : 酸に可溶</p>					

## 総合評価

### 1) 危険有害性の要約

本物質を扱う工場では、アンチモン及びその他の物質による混合暴露により塵肺症や皮膚、眼及び呼吸器の刺激性が多く報告されている。また、経口摂取による消化管障害のうちに死亡が報告されている。慢性暴露により流産及び早産の増加、月経周期の異常、婦人科疾患の増加、新生児の成長抑制もみられている。実験動物では肺と肝臓に影響がみられている。変異原性試験において復帰突然変異試験では陰性と報告されているものの、その他の *in vitro* 試験では陽性となっている。発がん性についてはラットの吸入暴露実験において肺の腫瘍がみられ、IARC ではグループ 2B に評価されている。生殖・発生毒性では出生児数の減少及び胎児の発育遅延はみられているものの、催奇形性の報告はない。

本物質は環境中に放出された場合、主として水圏に分布すると予想される。環境省のモニタリングデータはない。本物質の水圏環境生物に対する急性毒性は弱い。また、各種アンチモン化合物の水圏環境生物に対する急性毒性が報告されている。

### 2) 指摘事項

- (1) 本物質を扱う工場で塵肺症や皮膚、眼及び呼吸器粘膜の刺激性、女性で流産及び早産の増加、月経周期の異常、婦人科疾患の増加、新生児の成長抑制が報告されている。
- (2) 化学物質管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、排出量の管理が必要である。

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料 (2001).
- 2) IPCS, International Chemical Safety Cards (1995).
- 3) Hazardous Substances Data Bank (HSDB), U.S. National Library of Medicine (1998).